（様式１）

令和６年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 055	**提案機関名**	神奈川県漁業士会

要望問題名　海水温上昇に伴う魚種組成の変化に対応した試験・研究について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

黒潮Ａ型基調に伴う海水温上昇や大型魚の餌となるカタクチイワシの減少に伴い定置網、しらす船曳網、刺網、一本釣漁の漁獲量の減少が著しく、季節別に獲れる筈の魚が獲れない。一方で、西方から来遊する、サワラ、トラフグ、太刀魚、ハタ類や、ハマグリやサクラエビ等、増えている魚種もある。海水温上昇等により漁獲物組成が変化し、漁獲量が減少する中、生産性を向上させるために、下記事項を要望します。

・新たな漁獲対象種の調査～開拓
・黒潮Ａ型基調に伴う水温変化と、それに伴う魚種組成や分布の変化について
・新たな漁獲対象種の種苗生産技術開発（トラフグ・ハマグリ等）
・ハマグリやナマコの資源管理技術開発・指導
・アカモクやカキ・魚類等の新たな短期増養殖技術開発（つくり育てる漁業の推進）

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　[③４～５年以内]　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　[③水産技術センター]　④自然環境保全センター

備　考

回答機関名	水産技術センター	**担当部所**	企画研究部
対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

新栽培対象種の放流技術開発研究、混獲小型魚等を活用した養殖技術開発研究、藻場再生技術高度化試験、チョウセンハマグリの種苗生産基礎技術開発

対応の内容等

○当センターでは、現在利用している資源に対する資源評価や資源管理に資する調査に取り組んでおり、タチウオやトラフグなどは、資源を有効に利用するための調査を強化しています。一方で、新たな漁獲対象種を開拓することは難しいと考えますが、具体的に調査を希望する魚種がありましたら、ご相談ください。
○また、黒潮大蛇行が始まって以降、本県沿岸には黒潮系暖水が波及しやすく、相模湾では水温の上昇がみられますが、海水温の上昇は気候変動による影響もあると考えます。サワラなどは大蛇行前から増えていたことからも、魚種組成や分布の変化については様々な要因があることから、引き続き状況の把握に努めてまいります。
○当センターでは、新たな漁獲対象種としてトラフグの種苗生産技術開発を進めており、現在は本県産親魚を用いた人工採卵による種苗生産量の安定化を図っています。ハマグリ類については、令和５年度より種苗生産技術の開発に着手しました。今後、これらの研究知見からハマグリ類の種苗生産方法を検討して参ります。
○令和５年度よりチョウセンハマグリの資源生態の調査研究に着手し、資源管理手法の開発をしてまいります。またナマコの資源動向の把握をもとに資源管理に役立つ情報を提供してまいります。
○県内での養殖業の振興のため、令和５年度より新たに魚類等の短期養殖技術開発に着手することとしました。今後、試験の結果を踏まえ、本県海面における魚類養殖の実現可能性を評価し、漁業者および民間の養殖業者の参入障壁の低減を図ってまいります。
○アカモクについては、当センターで種苗生産を実施し、養殖試験用にアカモク種苗を横浜市、逗子市、三浦市及び小田原市の各漁協に供給しています。各漁協ではワカメ養殖に用いる既存の資材を有効活用してアカモ

クの養殖試験に取り組んでいます。今後も各地の要望を取り入れ、アカモク種苗を養殖試験に供給して参ります。普及では、新たな漁獲対象種を調査し、開拓を目指して、これまで漁獲対象でなかったハマグリについて、鎌倉・腰越・江の島片瀬・茅ケ崎・平塚地区では種苗放流による増殖を、新たな漁獲対象種としての漁が見込まれる鎌倉地区では資源増殖管理を、それぞれ指導し、資源量の増加に結びついています。また、既存のワカメ養殖筏施設を利用した３倍体シングルシードを用いた11～６月期におけるカキ短期養殖を試行しており、採算性が見込めるようであれば新たな養殖対象として、普及してまいります。	
解決予定年限	①１年以内　　②２～３年以内　　③４～５年以内（選択）　　④５～１０年以内
備　考	